

志高く、夢(目標)に向かって挑戦し続ける亀ヶ崎の子ども

当たり前のことを当たり前にする ~でも当たり前に行っていることは意外と見えないかもしれない~

「当たり前のことを当たり前に行えるように」と指導する場面があります。でも、日ごろから当たり前に行っている人にとって「何が当たり前なのか」分からなくなることがあるかもしれません。ですから、当たり前に行っている人は意外と褒められることが少なく、できていない人に注目が集まりがちです。

4月から本校の様子を見てみると、子どもたちが当たり前に行っていること、できていることが実に多いことに気づきます。そんな場面を紹介します。

- ・ 毎朝、時間通りに登校班で1列になって登校してきます。4月は学校に慣れていない1年生が登校をしぶることがあります。そんなとき、班長さんが優しく声をかけ、上手に関り、励まししながら1年生を連れてきています。雨の日は傘の雨水をしごいてから傘をたたみ、昇降口に入ります。先輩たちから教えてもらってきたことを引き継いでいるのでしょう。
- ・ 放課後に児童会の委員会活動があると、それぞれ活動する教室にランドセルを持って移動します。ランドセルを廊下に置いておくのですが、きれいに整頓して置いてあるのです。6年生が率先して行っている行動ですし、6年生が4、5年生にも声がけています。
- ・ 町別子ども会が開かれ、話し合いが終わった子ども会からそれぞれ体育館に集合しました。そこに集まってくる子どもたちの様子を見てみると、決して走ったり、大きな声を出したりすることなく整然と登校班ごとに集まるのです。お手本となる上学年、その姿に学ぶ下学年の姿があります。
- ・ 全校集会で子どもたちが声を合わせ歌うことがたびたびあります。すると、自然にとなりの人と手をつなぎ、体をゆすりながら歌い始めます。4月は6年生が1年生の教室に出向き、4月の歌を教えていました。手をつないで一緒に歌っていました。その1年生は下校時刻が早く、一度ホールに集まってから帰ります。他のクラスの友達がそろそろまで、4月の歌を大合唱して待っています。なんともほほえましい光景です。また、先日、3年生がリコーダーの使い方を講師から教えてもらった際、その講師がたくさんの種類のリコーダーで演奏を聞かせてくれました。すると、知っている曲になるとその演奏に合わせて自然に子どもたちが歌いだすのでした。歌とともにある学校だなと実感します。
- ・ 地域の皆さんからは毎朝、子どもたちの見守りをしていただき、あたたかく声をかけていただいています。また、ご都合のつく方からは、朝の本の貸し出し、給食のボランティアをしていただいております。クラブ活動、読み聞かせなど、どれも決して当たり前のことではありませんが、当たり前のようにご協力いただいております。

子どもたちは学校だけでなく、家庭、地域の中で育つわけですが、当たり前のこと、当たり前ではないことまで自然にできる土台がこの亀ヶ崎地区にはあることを実感します。

できていないことをできるようにしてあげることが教育ではありますが、できていることを認め、ほめることも教育であることは言うまでもありません。できている子、がんばっている子、少し前に進めた子など子どもたちの毎日の姿を見取り、励ましていきたいと思います。

